

## 2015 年度 本州太平洋におけるサケ回帰状況 (第 1 報 : 9 月 30 日現在)

国立研究開発法人水産総合研究センター  
東北区水産研究所 沿岸漁業資源研究センター

- ・ 9 月 30 日現在までの本州太平洋側の地域全体のサケ来遊数は前年並み
- ・ 4 年魚の河川捕獲数は、青森県の新井田川と岩手県の安家川において過去 10 年間で最も多く、津軽石川では過去 5 年間で 2 番目に少ない状況
- ・ 5 年魚の河川捕獲数は、新井田川において過去 10 年間で 3 番目に多く、安家川では少ないが、津軽石川では例年並み

※例年であれば、本州太平洋側の地域における秋サケの来遊が本格化するのには 10 月下旬以降になります。まだ漁期が始まったばかりであるため、今後の動向を注視する必要があります。

### 1. サケ来遊概況

9 月 30 日現在の本州太平洋側（竜飛岬から東の青森県～茨城県）におけるサケ来遊数（沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計）の累計値は 41 万尾（前年同期：100%）と前年並みですが、平年同期（1989～2014 年の平均値、62 万尾）との比較では 66%と少ない状況です（図 1）。

河川捕獲数の累計値は 4 万尾（前年同期：136%）と前年を上回っており、平年同期（5 万尾）との比較では 88%となっています。

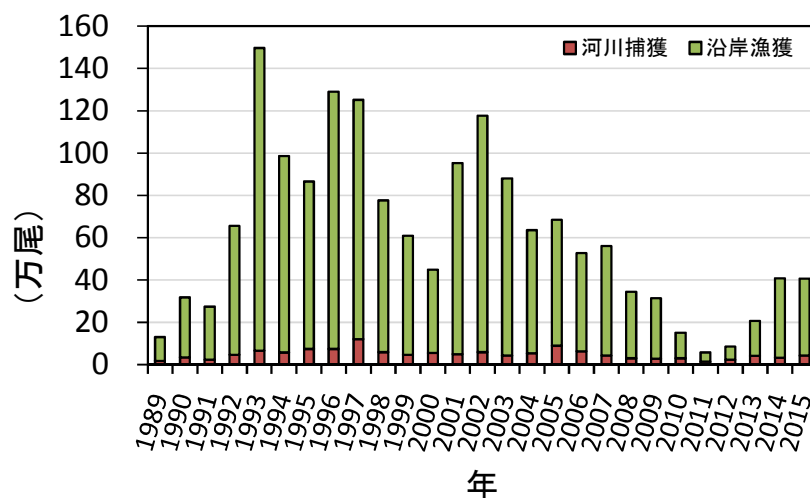


図 1 8 月 1 日～9 月 30 日までの本州太平洋側におけるサケ来遊数（累計値）の経年変化

## 2. 年齢別河川捕獲数と4年魚および5年魚の河川捕獲状況

現在までに年齢査定を終了している河川について、年齢別の河川捕獲数、4年魚および5年魚の河川捕獲状況をお知らせします。

なお、本年度、年齢調査結果のお知らせを予定している河川および各河川におけるサケふ化場の被災状況を図2に示します。調査河川の中では、岩手県の安家川、田老川、津軽石川、片岸川、盛川のサケふ化場において、津波被害が甚大であったため、回帰動向が特に注目されます。



図2 2015年度 年齢調査河川（左図）および各河川におけるふ化場の被災状況（右表）

### 青森県

#### 【新井田川】9月30日現在

4年魚の捕獲数は、過去10年間で最も多くなっており（図3-B）、これにより、全ての年齢構成を累計した河川捕獲数（以下、累計河川捕獲数）も過去10年間で2番目多い値となっています（図3-A）。

震災年に放流された5年魚の捕獲数は、昨年度を上回り、過去10年間では、3番目に多い状況となっています（図3-C）。

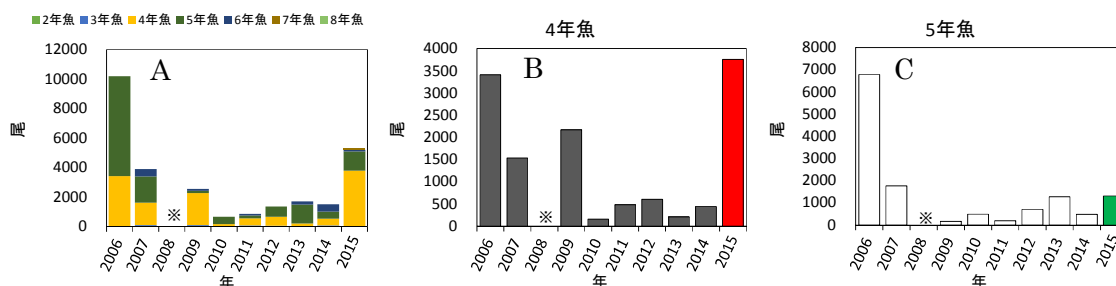


図3 年齢別の河川捕獲数（A）および4年魚（B）、5年魚（C）の河川捕獲数の経年変化

いずれのグラフも9月末時点における累計値を比較。※は調査を実施していないことを示す。

## 岩手県

### 【安家川】9月30日現在

回帰数の減少が危惧された4年魚の捕獲数は、過去10年間で最も多くなっており（図4-B）、これにより、累計河川捕獲数も過去10年間で最も多い値となっています（図4-A）。

一方、震災年に放流された5年魚の捕獲数は、昨年度を上回るものの、過去10年間では、3番目に少ない状況になっています（図4-C）。

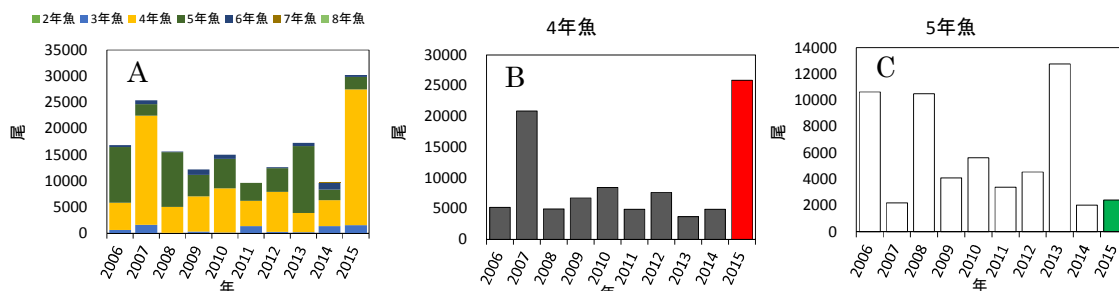


図4 年齢別の河川捕獲数（A）および4年魚（B）、5年魚（C）の河川捕獲数の経年変化

いずれのグラフも9月末時点における累計値を比較。

### 【津軽石川】9月30日現在

回帰数の減少が危惧された4年魚の捕獲数は、極めて少ない状況であり（図5-B）、これにより、累計河川捕獲数は、過去5年間で2番目に少ない水準に留まっています（図5-A）。

また、5年魚の捕獲数については、ほぼ例年並みとなっています（図5-C）。

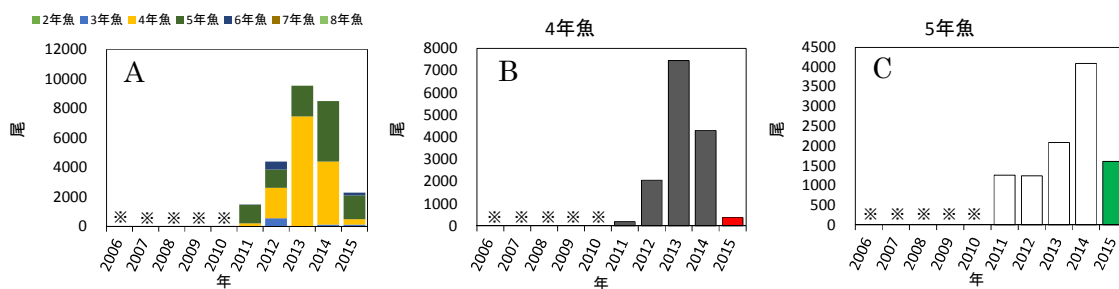


図5 年齢別の河川捕獲数（A）および4年魚（B）、5年魚（C）の河川捕獲数の経年変化

いずれのグラフも9月末時点における累計値を比較。※は調査を実施していないことを示す。